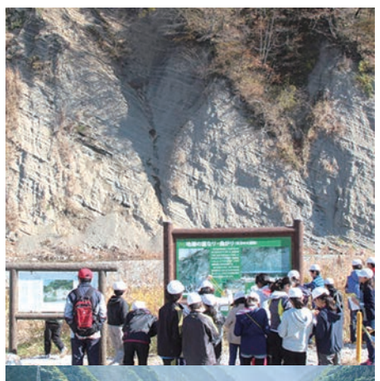
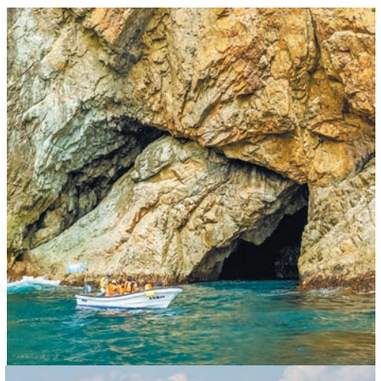

●会員証●
心 感動体験 高まる旅
全国ほんもの体験ネットワーク

オピニオン

社会の情勢と課題から考える教育旅行、体験交流の在り方について

全国ほんもの体験ネットワーク会長　全国教育民泊協会会長　株式会社体験教育企画代表取締役　藤澤　安良

１．社会の情勢と課題で教育旅行の行き先や内容を決める
戦後81年目を迎えようとする今年、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ地区侵攻、米国のイラン爆撃など、争いは続いており、平和の大切さを再確認しなければならない。また、争いに至る前に、外交や経済関係の重要性が問われることになる。◇平和学習：ヒロシマ、ナガサキ、オキナワ、北方領土、掩体壕（えんたいごう）などの戦争遺跡

２．教育現場の課題の解決に向かって教育効果を狙う
いじめ、不登校、虐待などの生徒を取り巻く環境は改善されないまま、悪化して、増え続けており、その根本原因は、コミュニケーション能力や人間関係構築能力の不足や欠如とされている。教育民泊や体験交流を通じてコミュニケーション機会を拡大し、人間関係構築能力の向上につなげたい。

３．人生の岐路に判断できる素養を持てるような体験をしてほしい
人生の岐路は何度も訪れる。そのたびに自信と勇気と誇りをもって判断し、艱難（かんなん）辛苦に立ち向かえるための経験値を高めたい。

４．地方の社会課題を他人事から自分事にした探究学習の機会が求められている
数学のように正解が明確でない社会課題に自分事として立ち向かう探究学習により、社会性を高め、グローバル人材の育成につなげたい。

考えられる社会問題は探究学習のテーマとなる
過疎化・少子高齢化、集落や田舎の存続、自然環境保全、限界集落、廃村集落、空き家、１次産業の低い生産性、１次産業の高年齢化・後継者不足、耕作放棄地の拡大、労働力不足、人工林の放置、森林間伐不足、獣害、里山保全、竹林放逐、中心市街商店街の衰退、独居老人の増加、買い物難民、交通インフラなど住民サービス低下

５．教育旅行は、混雑した観光地から分散化を図り、すいている地方の田舎を応援したい
著名観光地やテーマパークなどは訪れる機会は何度もある。地方は、食料生産現場であり、二酸化炭素を吸収する山林を持ち、飲料水等の生活用水も、地方の森やダムから川により運ばれている。自然豊かな田舎がなければ、都会の生活は成り立たない。田舎と都市は命でつながっている。十代の青春時代に生きた証となるような旅行にしなければならない。

６．普段できない体験交流や食べられない「食」がよい
素朴で人情豊かな人との交流、豊かな自然と触れ合い、鮮度のいい地産地消の食材による田舎料理に舌鼓を打つ。初めて食べるものに興味が広がる。

７．教育は人が変わることであり、修学旅行は変化変容が起こる教育機会にしたい
感動すると人は変わる。感動するには体験することである。体験学習が求めているものであり、価値である。

８．全国ほんもの体験ネットワーク（21面に受け入れ地域の一覧）
教育効果の高いほんもの体験や教育民泊を通じて、地域の社会課題も探究学習として取り組める受け入れ態勢整備を行っています。
次世代を担う青少年の健全育成の場として、教育旅行への活用をお願いします。

教育民泊から探究学習へ

北海道・標津

北方領土の平和学習と民泊、鮭の聖地体験

【知床の自然環境・産業・平和学習・歴史文化】　世界自然遺産知床の南に位置する標津町は、海、山、川、大平原のあらゆる資源に囲まれ、1万年の間、人々が暮らし続けている痕跡が残る唯一の地域。北は秘境、知床国立公園の山々が連なり、東の海岸から24㌔先に北方領土国後島が望め、内陸にはミルクの里の雄大な牧草地群が広がっております。1万年続く暮らしを体感する歴史文化に基づく地域ストーリーを軸に、地域の人々の暮らしに触れる教育旅行の受け入れを行っております。

【食と産業への理解を深める】　国内初となる食の安全・安心供給システムを水産業における「地域HACCP」生産活動をプログラム化し、学習素材として提供しています。製品検査だけでなく原材料の生産から加工・流通に至るまでの全工程であらゆる危害の発生を分析し、その危害が起こらないように工程中の重要な管理点を監視するシステムを当地ではイクラや新巻鮭（さけ）作り体験などを通し、学びを深めていただいております。

原始河川、ポー川でのカヌー体験

【平和学習 北方領土問題を知り考える】　終戦直後、旧ソ連軍が千島列島を侵攻し、北海道の間近までやってきたことを知らない若い世代に伝えるべきことがあります。オリジナルの学習ノート「北方領土平和学習ノート」を併用した「事前学習～講話・グループワーク～事後学習」を通して、北方領土問題や平和を考える体験は、日本の領土が間近に見える当地ならではの平和学習プログラムです。

新巻鮭づくりを体験

北方領土学習講話

【日本遺産「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～】　文化庁では、日本の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産として認定しています。標津町、根室市、別海町、羅臼町の4市町に住む人々は、鮭と密接な関わりを持つ歴史を歩んできました。2020年6月19日、人と鮭の関わりの歴史を語る4市町のストーリー「鮭の聖地」の物語として日本遺産に認定されました。当町には、約4400個を超える古代の竪穴住居跡の無数のくぼみが連なり、日本最大の遺跡群「標津遺跡群 伊茶仁カリカリウス遺跡」が形成されています。遺跡からはあらゆる時代の命の教育、生活規範・社会性」について学び、地域の持続可能性や生徒自身の生き方や将来のキャリアについて考えることができます。当町は探究学習や教育民泊の取り組みを深化させ、「観光SDGs」を推進していきます。

地元の食材を使った昼食を提供

「鮭の聖地」の物語の地域ストーリーを体感するプログラムを通して、より地域への学びを深めます。

【平和学習と教育民泊受け入れの推進】　当町では、約25年間、自然・産業・歴史・平和を素材としたエコ・ツーリズム事業を展開してきました。今後はより一層、探究学習やSDGsの取り組みが求められています。「鮭の聖地」の物語は1万年の人々の暮らしそのもの。各家庭での民泊で、現地の人と豊かな自然の中で共に暮らして交流を深めることで、生徒の「人間関係構築能力」や「コミュニケーション能力」を高めることができます。また、「食育、産業・地域、歴史文化、

けさのさけ 北海道標津町 鮭の聖地一万年の源流
一般社団法人
南知床標津町観光協会
〒086-1653　北海道標津郡標津町南3条西1丁目1-6
TEL　0153-85-7226　FAX　0153-85-7227
URL　https://www.visitshibetsu.com/

岩手県・田野畑村

海と大地のワンダーランド
大地の恵みと大震災の教訓を学ぶ

岩手県沿岸北部に位置する田野畑村は、人口約2900人の農山漁村です。高さ200㍍前後の断崖が連なる北山崎や鵜の巣断崖など、三陸随一の景観を誇るだけでなく、大自然と共に生きる村民の暮らしを全身で学べる体験プログラムを長年にわたって提供してきました。

田野畑村の豊かな自然の中に築かれてきた歴史や文化、漁業、農業、酪農、林業、観光といった多彩な産業と人々の営み、そして大津波の教訓を胸にたくましく生きる村民の姿は、子どもたちにとってよき先生となります。体験プログラムの指導者は子どもたちとの一期一会を大切にし、素顔と本音で真剣に向き合います。

大地の成り立ちと漁師の営みを学ぶ「サッパ船アドベンチャーズ」

■組織と教育訓練
体験村・たのはたネットワークがコーディネート組織として手配のワンストップ化を図り、田野畑村役場が後方支援をする官民一体の体制を整え、学校や旅行会社の目的や要望に対し迅速、柔軟に対応しています。プログラムの指導者や民泊家庭は定期的な研修を行い、漁船プログラムについては海上保安庁などとの連携訓練を実施し安全確保に努めています。

■民泊（ホームステイ）
約30軒の受け入れ家庭で約100人（人数によりホテル羅賀荘との交互宿泊による受け入れ体制となります）の受け入れが可能です。山菜を収穫して魚をさばき、共に食卓を囲む体験は、自然の恵みを分け合ってきた人々の暮らしを学ぶ人間教育の原点です。

太平洋を望む「ホテル羅賀荘」

■宿泊ホテル　太平洋を望む好立地のホテル羅賀荘は、修学旅行の受け入れ実績も豊富。ホテルに隣接する交流センターは、来村セレモニーや体験プログラム、ワークショップなど多目的な活用が可能で、悪天候によるプログラム変更にも臨機応変に対応できます。

■机浜番屋群　番屋は漁師の作業小屋で、机浜番屋群は平成18年に「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に選ばれました。

「大津波語り部」から生の声を聞き、もしもに備える

東日本大震災の津波による流失後、多くの方の支援をいただき、以前の面影を復元する形で再建。現在は漁師の生業の拠点であるとともに、塩づくりや番屋料理などの体験観光の拠点施設となっています。

【お奨めプログラム】
◆サッパ船アドベンチャーズ　現役で漁に使われている小型漁船（サッパ船）に乗り、漁師の操縦で断崖直下や岩礁の間を縫うように航行する迫力満点のツアーです。洋上や漁港での体験は、漁業の厳しさや漁師の知恵を伝えます。

◆大津波語り部　平成23年3月11日に村を襲った大津波の脅威と教訓を物語る震災遺構「明戸海岸防潮堤」

大津波は、住家や産業施設、多くの尊い命を奪い去りましたが、被災地では前向きに復興への歩みを進めてきました。当時を知るガイドから、脅威のみならず防災への備えと日常の大切さを学びます。

◆塩づくり体験　かつて三陸一帯で行われていた塩づくりを、昔ながらの製法で体験できます。起伏の激しい地形や冷たく湿った季節風「やませ」の影響で米作りができなかった三陸では、塩を内陸に運び穀物と物々交換をすることで命をつないできました。風土に根ざした営みを知ることは、日本全国の文化の多様性を理解することにも役立ちます。

〒028-8402　岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10
北山崎ビジターセンター内
TEL　0194-37-1211　FAX　0194-33-3355
E-mail taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
URL https://www.tanohata-taiken.jp/
NPO法人 体験村・たのはたネットワーク
担当　楠田・石井